

コガタノゲンゴロウ 鞘翅目 (コウチュウ目) ゲンゴロウ科

Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner, 1931

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)



■選定理由：個体数の多い普通種であったが、2002年には県内で確認された場所が3カ所になった。全国的にも絶滅とみられる地域が多い。

■特徴：平均体長が26-27 mmの中型のゲンゴロウである。腹面は黒色から黒赤色まで変異がある。おもに水田で産卵し、幼虫はオタマジャクシ等を捕食する。蛹化は畦の土中で行われ、羽化成虫も水田ですごす。田の水抜き後は越冬水域に移動し、その後は春までほとんど移動しない。

■分布 県内：県内全域の平野部。県外：本州，四国，九州，沖縄。

■保護上の留意点：餌の多い耕作田が重要であり、生活史に合わせた水管理、土畦の維持や減農薬が必要である。越冬は同じ水域内でも条件のよい場所に集中するため、水草があり、水質のよい池等を多くつくる必要がある。

■特記事項：鳥取県特定希少野生動植物。

■文献：91, 92, 93.